

## 宮城大学における小・中学生を対象にした情報教育の試み(2)

斐品 正照, 河村 一樹  
宮城大学 事業構想学部

あらまし:この試みは合宿形式の情報教育であり,今年(1999年8月)で2回目になる。昨年は,大学教員と大学生 TA( Teaching Assistant)の支援により塾生はホームページの作成技術を学んだ。しかし,その学習は塾生個人の世界に閉じてしまっていたといえる。そこで,今年の方針は,塾生同士が協同して作品を作るという一種の協同学習を目指した。TAは塾生の協同学習を支援した(一人のTAあたり4人の塾生を担当)。筆者らは,塾生の協同学習を支援したTAも,学習者として参加したことになると見ている。

筆者らは,この試みを検証するために,以下の(1)~(4)の記録を分析することにした。

- (1) 塾生を対象にしたポストアンケート
- (2) 各塾生グループが作成した作品(ホームページ)の評価
- (3) 大学生 TAによる塾生の指導記録(カルテ)
- (4) 大学生 TAを対象にしたプレ・ポストアンケート

本論文では,今年の実践の概要と(1)~(4)の記録結果を報告する。

### A Trial to Information Education for Elementary & Junior high school students by Miyagi University Teachers & Students (2)

Masateru HISHINA, Kazuki KAWAMURA  
School of Project Design, Miyagi University

**Abstract:** This trial is the information education (private-school) of training-camp form, and it is the 2nd time this year (August, 1999). The private-school student learned the creation technology of a Home Page by the university teacher, and support of the university student TA (Teaching Assistant) last year. However, the study was closed in the a private-school student individual's world. Then, the object of this year aimed at a kind of collaborative learning that private-school students made a work jointly. TA supported collaborative learning of a private-school student (four private-school students per one TA). Writers are also regarding TA which supported collaborative learning of a private-school student as it meaning participating as a student.

Writers made analyzing record of the following (1) - (4), in order to verify this trial:

- (1) The post questionnaire for a private-school student
- (2) Evaluation of the work (Home Page) which each private-school student group created
- (3) Instruction record (chart) of the private-school student by the university student TA
- (4) The pre/post questionnaire for the university student TA

In this paper, we report the outline of the educational practice of this year, and the record result of (1) - (4).

#### 1. はじめに

コンピュータ,インターネットの整備された演習室は多くの大学で存在する。学生がノート型パソコン,学内LANを利用して「いつでも」、「どこでも」学習ができるキャンパスコンピュータシステム(CCS)が導入されている大学もある(1)。

1997年に開学した県立宮城大学でも学内にLANを整えてあり,キャンパス全体を「サイバーキャンパス」と呼んでいる(2)。事業構想学部では,学

生一人ひとりがノート型パソコンを持ち,先進的な実学志向の学習とそれに関連する情報技術の学習を行っている。

筆者らは,上記のような高等教育機関の先進的な情報教育環境を,初等・中等教育の子供たちに提供して,より高度な情報教育を行うことも1つの方法だと考えている。

その教育実践として,県立宮城大学のコンピュータ演習室を利用して,小・中学生を対象とした合宿形式の情報教育を実施している(3)(4)。

## 2. 合宿形式の情報教育の概要

### 2.1 実施の背景

宮城県では、情報化に的確に対応して県民福祉の向上や地域の発展を図ることを考慮し、総合的・計画的に情報化施策の展開を目指している(5)。1998年度に発表された「高度情報通信県みやぎ推進計画」には、「情報ネットワークの整備」、「情報化拠点の整備」、「情報システムの整備」、「情報教育の充実と人材の育成」の主に4つの計画が示されている。

一方、文部省の文教施策に基づき、公立学校における教育用コンピュータの整備目標の達成を宮城県でも目指しているが、その達成率はまだ高いとは言えないようである(6)。子供たちがコンピュータに興味を持って、最先端の情報教育環境を利用できないというのは問題点としてあげられる。

そこで、1998年に宮城県(情報政策課)では、コンピュータやマルチメディア、インターネットなどに興味・関心を持つ県内の小・中学生を対象に、最先端の情報教育環境を利用してより高度な学習ができる企画をたてた。それが「みやぎ情報天才異才塾」である。

### 2.2 「みやぎ情報天才異才塾」の概要

1999年8月に実施した「みやぎ情報天才異才塾」は、宮城県内の小学5年生(40名)、中学2年生(39名)を対象に、それぞれ2泊3日の日程(小学生:8月17日～19日、中学生:8月21日～23日)で行った。

情報教育環境としては、昨年に引き続き県立宮城大学のコンピュータ演習室が選ばれたが、今年は更にグループで作業が出来るように別室(小規模演習室)も準備された。塾生たちの宿泊には、近隣の保養施設を利用した。

筆者ら宮城大学教員(2人)の指導のもとに、宮城大学の大学生(1年次～3年次)が、演習・グループごとの指導(10人)と専門知識の指導(5人)を担当した。

塾生の対象は、マルチメディアやインターネットなどのコンピュータ技術に強い興味を持ち、操作経験がある者、コンピュータを使ってどんなことをやってみたいのか具体的に夢を描いている者、インターネットが身近に使える環境があり、塾終了後の学習をみずから進めていくことができる者として、募集要項にも記載した。昨年と同じく、申し込みが多数であったため、厳正なる抽選で塾生を決定した。

#### (1) 目標

将来の情報分野を担う人材育成の一貫として、夏休み期間を利用して、高度なマルチメディア作品を制作するものであり、以下の5つのことを学習の目標としている。

- ① 道具としてのコンピュータの面白さ、楽しさを体験する。
- ② 大学生 TA から、高度な知識や技術を教わり、知的な刺激を受ける。
- ③ オリジナルなマルチメディア作品の創造を目指す

して、塾生みずから企画、構成、編集、加工、公開、発表を行う。

- ④ 塾で知り合った仲間とともに、協同学習することを通じて交流を深める。
- ⑤ 塾終了後は、この塾で学んだことを塾生みずから発展させるとともに、各地域に広く普及させ、更なる人的ネットワークの構築を目指す。

#### (2) 学習指導の内容

宮城大学のコンピュータ演習室を中心に、サイバーキャンパス(学内からどこでも世界中にアクセス可能な環境)を生かして、塾生みんなで仮想的なマルチメディア・マガジン(ホームページ)である「みやぎ情報天才異才塾バーチャルマガジン」を制作する。

はじめのうちは、塾生を8つの班(1班あたり8人の塾生、2人の TA)に分けて、TA は協同学習のための塾生の相性などを判断した。その後、塾生を4人のグループに分けて1つの作品の制作させることにした(TA1人が指導を担当した)。

なお、カリキュラムとしては、小・中学生とともに(多少のレベル差はあるが)ほぼ同じ内容の学習指導、スケジュールとした。

#### (3) 学習指導のスケジュール

##### (a) 1日目の目標:

グループごとにバーチャルマガジンの構成を決める。

① 1コマ目(1日目 14:00～15:30) <コンピュータ演習室にて>

- ・ 電子メール、ブラウジングなどの基本操作の講義。

② 2コマ目(1日目 15:30～17:00) <各グループに割り当てられた別室にて>

- ・ 各グループに分かれて、用意されたノートパソコンに自己紹介文章のテキスト打ち。
- ・ 学内を知るために、キャンパスツアーを実施。

③ 3コマ目(1日目 19:00～22:00、ただし、途中入浴時間を設けている) <宿舍の各グループに割り当てられた部屋にて>

- ・ グループ分けとグループ名の決定。
- ・ ホームページの構成を手書きで表現しながら、バーチャルマガジンのイメージづくり。

##### (b) 2日目の目標:

バーチャルマガジンで使用する素材の完成、ホームページの枠組みの完成を目指す。

④ 4コマ目(2日目 9:00～12:00) <各グループに割り当てられた別室、サイバーキャンパス、コンピュータ演習室にて>

- ・ 素材づくりのためにデジタルカメラをもって学内にて取材。
- ・ 専門的な技術を学ぶためにコンピュータ演習室にて講義を受ける。
- ・ ノートパソコンで編集作業や HTML タグの入力。

⑤ 5コマ目(2日目 13:00～14:30) <各グループに割り当てられた別室、サイバーキャンパス、コン

- ・ホームページの組み上げを行う。

⑥6コマ目(2日目 19:00~22:00, ただし, 途中入浴時間を設けている) < 宿舍の各グループに割り当てられた部屋にて >

- ・全てのページの完成を目指す。

(c)3日目の目標:

バーチャルマガジンの完成, サーバーへのアップ, 発表会でのプレゼンテーション。

⑦7コマ目(3日目 9:00~12:00) < 各グループに割り当てられた別室, サイバーキャンパス, コンピュータ演習室にて >

- ・ページ間のリンクチェック。
- ・サーバーへのアップ。

⑧8コマ目(3日目 13:00~14:00) < コンピュータ演習室にて >

- ・各グループごとのバーチャルマガジンの発表会。
- ・審査委員による審査と表彰式。

### 3. 塾生を対象にしたポストアンケート

3日目の閉講式のあとに, 全塾生(合計79人)を対象にアンケート調査を実施した。アンケートは, ①この塾の内容について, ②TAのお兄さん・お姉さんについて, ③グループでできたお友達について, ④その他, 以上の4項目にした。

回答の一部を付録1に示す。

塾の内容については, 少し難しく大変であったよ

うであるが, わかりやすく, みんなで作品を作って楽しかったという回答が多かった。初めて会う人との接し方を学んだという意見, 時間が少ないという意見もあった。TA については, やさしく楽しくわかりやすく指導していたことが分かる。グループの友達については, 塾終了後もメール交換する約束をするなど, 新たな交流が生まれている。その他の回答では, 次の機会にも参加したいというものが多かった。

### 4. 各塾生グループが作成した作品(ホームページ)の評価

3日目のバーチャルマガジンの発表会のときに, 審査委員による作品の評価を実施した。なお, 審査委員の構成は小学生の部と中学生の部のそれぞれ, 大学教員(1人), 大学生TA(2人), 県の職員(1人), 塾で指導に関わっていない第三者(1人)の合計5名であった。評価基準は, 1が「ない」, 2が「ややない」, 3が「どちらでもない」, 4が「ややある」, 5が「ある」の5段階である。

図1に小学生と中学生それぞれの作品評価の全体平均値を示す。

部分的な作品評価(Q1~9)としては, 中学生に比べて小学生の作品の方が評価値が高い項目が多い。小学生の部の終了後の関係者による反省会でも議題に上がったが, 時間的に無理があったり, レベルの高い部分などは, 大学生 TA が塾生の作品

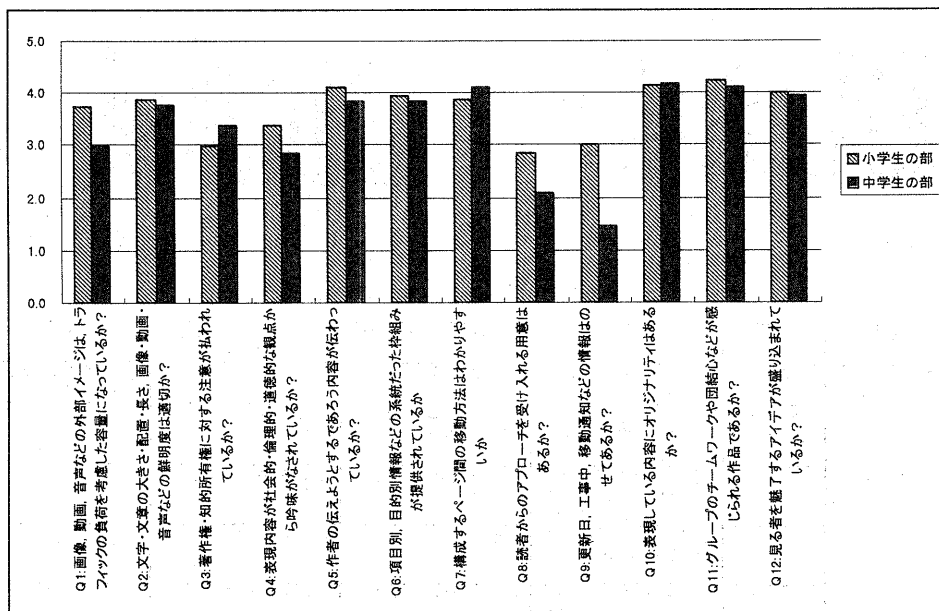


図1 作品評価の全体平均値

制作を肩代わりしていたこともあったようで、それだけ完成度の高い作品になってしまったことが原因と考えられる。なお、中学生の部では、筆者らから大学生 TA に、作品制作時に制作の肩代わりをしないようにと指導した。

総合的な作品評価(Q10~12)としては、小・中学生ともに、オリジナリティやグループ内のチームワークが感じられる作品になっていたようである。

### 5. 大学生TAによる塾生の指導記録(カルテ)

今年は、塾生の指導を大学生TAが中心に担当した。塾生の指導に当たっては、指導記録(カルテ)をつけるように提案した。これは、塾生を指導するときに、その場の雰囲気にならされず、記録を付けることで、冷静にかつ次の指導方略を考えられるようにとの配慮からである。付録2にその指導記録(カルテ)のフォーマットを示す。カルテは、1日目の午後、1日目の宿泊先、2日目の午前、2日目の午後、2日目の宿泊先、3日目の午前と6つの時間帯での記録ができるように各グループごとに6枚の用紙を配布した。

表1に、大学生TAが記録した塾生の3つの状態、

表1 大学生TAによる塾生の状態の平均値

	やる気	協調	総合評価
小学生の部	3.97	3.56	3.80
中学生の部	4.01	3.67	3.63

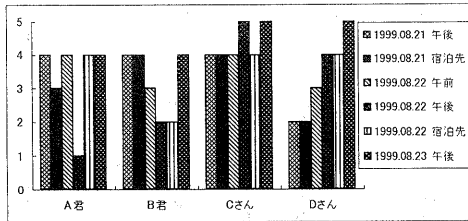


図2 あるグループの「やる気」の状態変化

塾生のやる気の状態、他の塾生との協調、総合評価の全体的な平均値を示す。なお、それぞれの数値は、良くない状態に「1」、普通の状態に「3」、良い状態に「5」をあてはめた。塾生はやる気があり、他の塾生とある程度は協調して学習していたことがわかる。

あるグループ(中学生の男子2人と女子2人)の「やる気」の状態変化を図2に、「他の塾生との協調」の状態変化を図3に、その中のA君についての詳しい記録を表2に例として示す。A君は特に2日目の午後にやる気と協調の状態が低下している。詳しい記録(学習レベル状態)をみると、寝不足が原因でやる気が低下していたようであり、協調も一緒に低下してしまったことがわかる。またその他の詳しい記録(当面の指導目標、指導の手段・方法・工夫)をみると、このグループを指導した大学生TAが、この塾生の状態を把握して、指導の工夫をしていることがわかる。

この例で示したものは比較的丁寧に記録されていたものであるが、筆者らが当初想定したような記録が残念ながらできていないものもあった。6つの時間帯での記録がきちんと出来ていなかったり、記録内容が抜けていたりして、かなりの欠損があった。これは、大学生TAが教職課程を履修している学生ではない(本学事業構想学部では教職課程がない)こと、指導記録の必要性などTAへの理解の徹底ができていない

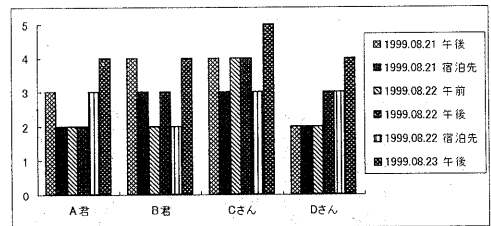


図3 あるグループの「他の塾生との協調」の状態変化

表2 A君についての詳しい記録

日付	時間帯	学習レベル状態	当面の指導目標	指導の手段・方法・工夫	備考
1999.08.21	午後	能力が高く、先に進みすぎる	協調性を持たせる	リーダーにする	前日寝ていない プログラミング得意
	宿泊先	自分のできる範囲なのでつまらなそうである。	構成など難しめのことをさせたい	Cさんとリーダーにさせたい	
1999.08.22	午前	どうやらあまり眠れていないようで、やる気が下がっている	やる気をあげるようにしたい	画像講座に行かせてみる	
	午後	前日の寝不足によりかやる気が落ちている	やる気を復活させる	指導にまわしてみる	
	宿泊先	エディットHTMLを使いこなせるようになり、やる気がさがる	疲れを取るように。	早く寝させる	
1999.08.23	午前	昨日よりも積極的に進んでいる	B君と共にHTMLを完成させる		2人とも眠いらしい

かったこと、TAも塾生の指導に追われ記録をつける時間がなかったことなどが原因と考えられる。

今後は、指導記録(カルテ)を改善する必要がある、新たな指導の記録方法を含めて考えていきたい。

## 6. 大学生TAを対象にした プレ・ポストアンケート

大学生TAが、この教育実践に参加することで、どのように意識が変化するのか、ということ进行调查するために、塾の実施前と実施後に大学生TA対象にアンケートを実施した。なお、小学生の部と中学生の部で、担当した大学生TAの若干数の入れ替わりがあったので、回答者は合計で20人となった。(ただし、プレアンケートのときに1人分のデータが欠損している。)

### (1) 参加した理由とその感想

プレアンケートにおける、Q1「なぜ天才異才塾に大学生TAとして参加しようと思ったのですか？それはあえて言えば次のどれがあてはまりますか？」という質問に対する回答を表3に示す。ポストアンケートにおける、Q1「天才異才塾に大学生TAとして参加してどのように思いましたか？それはあえて言えば次のどれがあてはまりますか？」という質問に対する回答を表4に示す。

プレとポストの変化を見ると、教育への関心と社会活動の回答者がいなくなり、自分の勉強と子供たちとの交流の回答者数が増えている。子供たちとの交流を通じて、自らも何かを学んだことが強く印象に残っていることがわかる。

### (2) 情報教育のイメージ

プレアンケートにおけるQ2「情報教育についてのあなたのイメージを書いてください」、ポストアンケートにおけるQ2「天才異才塾に参加して、情報教育についてのあなたのイメージはどのようになりましたか？」という質問に対する回答の代表例を以下に示す。

#### ① イメージ増加型(E君, 3年生)

・プレでの回答:

表3 なぜ天才異才塾に参加しようと思ったのか？

1:アルバイト代が目的	0
2:教育に関心がある	2
3:何か社会活動がしたい	2
4:自分も勉強したい	3
5:子供たちと交流したい	3
6:友達に薦められた	1
7:自分のスキルを確認したい	2
8:夏休みを有意義にしたい	2
9:その他	1
無回答・無効	3
合計	19

単位(人)

コンピュータについて学ぶこととコンピュータの使い方を学ぶことというイメージが強いです。

・ポストでの回答:

前に書いた時は、コンピュータの中身を知ること、その使い方を学ぶという2つでしたが、今回の塾を通して、「情報をいかに共有するか」とか、「コンピュータを通して何ができるのかを考える」ということが、イメージとして加わったと思います。

#### ② イメージ見直し型(Fさん, 1年生)

・プレでの回答:

パソコンに向かってひたすら操作。コンピュータリテラシー向上のための教育。

・ポストでの回答:

ただ1人でパソコンに向かってカタカタするのではなく、人と接しながら、いかに「自分」を情報として表現していくか、ということが重要であると感じました。

#### ③ 将来展望型(G君, 1年生)

・プレでの回答:

小中通じて、今までまったくつまらないものばかり。実際には使えない知識ばかりをつめこまれてきた。現状ではどうなっているかは解らないが、大幅な見直しが必要であろう。

・ポストでの回答:

今回の塾は情報教育とは少し違うレベルにあったと思う。少なくとも今までの情報教育と言われていたものは、今回の塾程楽しくもなければ、効果的でもない。これからの情報教育がどうなっていくか、楽しみでもあり、不安でもある。

#### ④ わからない型(Hさん, 1年生)

・プレでの回答:

今後の必要性はあっても、はたして本当に有効であるのかという疑問がある。そもそも教育とは何なのかというところまで至る。

・ポストでの回答:

現時点ではよけいにわからなくなったところもあるが、子供たちが楽しむことに意味があるように思った。そこからいろいろなことが生まれてい

表4 天才異才塾に参加してどのように思ったか？

1:アルバイト代さえもらえれば	0
2:教育に関心がもてた	0
3:このような社会活動が楽しい	0
4:自分も勉強できた	5
5:子供たちと交流してよかった	7
6:友達に薦めたい	0
7:自分のスキルを確認できた	2
8:夏休みを有意義にできた	2
9:その他	1
無回答・無効	3
合計	20

単位(人)

くように思う。

以上の結果から、まだ体系だった情報教育を受けていない世代が故に、どちらかというとマイナスイメージをもっていることがプレアンケートから分かった。これまでの情報教育がリテラシー教育に留まっていることも原因だと思われる。しかし、ポストアンケートでは、この教育実践を通じて、情報の共有化、自己表現の方法など彼らが新たな視点で「情報教育」を見つめ直していることが分かった。中には、この塾を「情報教育」とは違うものだという回答は他でも見られた。合宿を伴う教育実践であり、新しい情報教育だと期待をもって臨む者がいる一方で、どこか林間学校のようなイメージで大学生 TA として臨む者がいたようである。

### (3) 何を得ようとして、何を得たのか

プレアンケートにおけるQ3「天才異才塾に大学生 TA として参加して、あなた自身は何を得ようと思いますか?」、ポストアンケートにおけるQ3「天才異才塾に大学生 TA として参加して、あなた自身は何を得られたと思いますか?」という質問に対する回答の代表例を以下に示す。

#### ① スキルアップ・教育思考型 (E 君, 3年生)

・プレでの回答:

小さい子供に自分の持っている情報をどのよう伝えるのかという点で何かを得られればよいなと思います。

・ポストでの回答:

目に見えるところでは、多少、画像処理などのスキル面で新しく学んだことがありました。その他に、小・中学生の扱い方とか指導の方法も学ぶことができたと思います。あと、グループ教育と個人教育の違いについていろいろと考えることができたのは、良い経験になったと思います。

#### ② 反省型 (F さん, 1年生)

・プレでの回答:

いろいろな物事の見方。自分の世代との考え方のちがいを学ぶ。

・ポストでの回答:

第1にスキルのなさを痛感しました。先輩方に頼らなければ作業を終わらせることができず、迷惑をかけてばかりでした。第2に子供たちと接するときの姿勢がわかりました。これらはぜひ来年の異才塾につなげていきたいです。

#### ③ 支援方法学習型 (I さん, 1年生)

・プレでの回答:

子供達にパソコン技術を教える能力を磨くだけじゃなく、自分のスキルアップもはかり、かつ子供と接してお互いに学ぶことがあると思うので、それらを得たい。

・ポストでの回答:

パソコンを教えることを通して年の離れた子どもたちとどのように関われば仲良くなれるのか、

とか、どのように教えればわかってくれるのか、などを学ぶことができた。

以上の結果から、プレアンケートでは期待することが漠然としていたが、ポストアンケートでは、この実践を通じて、自らのスキルアップができた、スキルの低さを痛感したり、塾生の学習支援の方法などを学んだりしており、教えることを通じて学んでいることが分かった。

## 7. さいごに

2回目になる今年の試みでは昨年の内容を大幅に変更して、塾生同士が協同して作品を作るという一種の協同学習を目指した。この論文では、今年の実践の概要と4種類の記録結果を報告した。

個人の世界に閉じこもりがちな学習をイメージしている塾生も存在したが、グループでひとつの作品を作り上げることは、ホームページ作成技術だけではない学びを活性化させたようであり、協同学習は効果的であったように思われる。

その協同学習の現場に TA として参加した塾生も、教えることを通じて学ぶこと (Learning by Teaching) を体験したようである。中には「情報教育」を見つめ直す学生がいた。塾生の協同学習を支援した TA も学習者として参加したことになる。

筆者らは、この教育実践は「小・中学生を対象とした情報教育」という側面と、「大学生を対象とした情報教育」の側面があると考えている。

今後は、これらの記録を更に分析することで、上記2つの側面を検証していきたいと考えている。

## 謝辞

この論文で報告した情報教育の試みに参加した宮城県情報政策課の職員の方々、(財)宮城総合研究所の職員の方々、ならびに大学生 TA の諸君に感謝の意を表します。

なお、本研究の一部は、(株)日立製作所が提案して、情報処理振興事業協会 (IPA) に採択されたプロジェクトの一部であり、本論文におけるデータの分析に一部支援を受けたので深く感謝する。

## 参考文献

- (1) 林 敏浩: “Acadia Advantage: ノート型コンピュータ利用による学部教育のインフラストラクチャ”, 教育システム情報学会誌, Vol.15, No.2, pp.95-101 (1998)
- (2) 藤井 章博, 河村 一樹: “宮城大学サイバーキャンパス”, 情報処理学会研究報告書, Vol.97 No.125, pp.1-6 (1997)
- (3) 斐品 正照, 河村 一樹: “宮城大学における小・中学生を対象にした情報教育の試み”, 情報処理学会研究報告, Vol.98, No.102, pp.73-80 (1998)
- (4) 斐品 正照, 河村 一樹: “大学生 TA の支援による小・中学生を対象にしたホームページ作成のた

- めの合宿形式の情報教育”, 教育システム情報学会誌, Vol.16, No.2, pp.105-110 (1999)
- (5)宮城県企画部情報政策課: “高度情報通信県みやぎ推進計画”, <http://www.pref.miyagi.jp/jyoho/keikaku/index.htm> (1998)
- (6)文部省: “学校における情報教育の実態等に関する調査結果”, NEW 教育とコンピュータ, November1999, 学習研究社 (1999)

## 付録1 塾生を対象にしたアンケートの回答

### (1)小学生の部

#### ①この塾の内容について

- ・思ったよりもパソコンむずかしかったし、大変だった。
- ・ホームページを自分たちで作っていくのがとても楽しかった。
- ・初めて、ホームページを作るので、きんちょうしたけれど、みんなで、案を出しあったりして、おもしろかった。
- ・ホームページ作りはやっぱりむずかしいんだな、と分かりました。もうちょっと、基本を学んで、もっと分かるようにしたかったです。それから、もっと時間をかけて、最初から作ってみたいかな、と思いました。
- ・パソコンがじょうずになってともだちもできていいと思いました。
- ・時間がみじかかったのが、さんねんです。もっといっぱい時間があったらよかったです。

#### ②TAのお兄さん・お姉さんについて

- ・やさしくて、ちゃんとおしえてくれて、よかったです。
- ・おもしろくて、いろいろなことを教えてくれたし、写真もとらせてくれた。
- ・おこらなかつたし、おもしろい話をしてくれたりして、たのしかった。
- ・優しく、分かりやすく教えてくれました。パソコンが上手でびっくりしました。

#### ③グループでできたお友達について

- ・みんな、家がはなれていてこれからはなかなかあえないけど、メールこうかんなどをしてずっと仲良しでいきたいです
- ・みんなのりがいい人で、夜、ねむれない時みんなでしゃべったよ!
- ・なんか、また一人、もう一人ってかんじでできて(友達が)たのしかった。
- ・みんなおもしろい人たちがいっぱいいて、ほかの小学校だとは、思わなかった。
- ・はじめは、ともだちができるか不あんだけど、みんなと楽にはなせたのでよかったです。
- ・キーボードを打つのが早いひとがいたので、とても感心した。
- ・Eメールアドレスもおしえてあってメル友にもなりました。たのしくすごしました。
- ・すごい仲良くなって、色々おしゃべりしたり、話し合いなどをした。男の子は、絵などをがん

ばってパソコンで書いてくれた。

- ・みんなとっても明るい友達で、よき仲間。手紙のやりとり決定。もっと、とまりたい。
- ④その他
- ・また、こういう企画をするのでしたら、よかつたらまた参加したいです。
  - ・他のはんの人とも仲よくなった。
  - ・ごはんが多くて大変だった(;) )
  - ・とまる所も、とってもきれいで、私たち四人にはもったいないな～と思いました。
  - ・メールフレンドがふえてよかった。
  - ・TAのみなさん三日間、パソコンの勉強だけでなく少しでも遊んでくれたのでどうもありがとうございました。どこかでまた会ったりしたら声をかけてください!
  - ・学園祭行くよ～!
  - ・三日目の朝ごはんがと～ってもおいしかったです。

### (2)中学生の部

#### ①この塾の内容について

- ・やっぱり、私よりレベルが上の人向けの塾だな～と思いました。
- ・学べるのがたくさんあり、有意義な三日間がだせたといい感謝しています。
- ・内容は、学習した内容がすぐHP作りに活かされたりしてすごく面白かったです。ただ、欲をいえば時間が短くて大変だったので、もっと長くてもいいと思います。
- ・個人的にページを作っていた方がいいのにと、やる前は思っていたけど、みんなとやっていた方が、楽しかったので、よかったです。
- ・自分たちでホームページを作ることによって、勉強になったことがたくさんあり、とても良い塾だった。
- ・思ったより高度でついていけなかった。初めに、ホームページの作り方を簡単に教えてほしいから教えてほしいかった。
- ・この塾ではパソコンの事ももちろん、初めて会う友達とのせつしかたなど、たくさん学べた良かったです。
- ・HTMLの基本的なことやその他いろいろ学べた。
- ・おもしろかった。たった三日間てのは少しさびしい。パソコンがますます好きになった。
- ・手が出ない所もあったけど、内容がこく、分かりやすくてよかったです。
- ・パソコンをいろんな友達といっしょに学べるころがおもしろかったです。普段、教えてくれないことをいっぱい教えてもらってうれしかったです。

#### ②TAのお兄さん・お姉さんについて

- ・大変優しくしていただいたに本当にありがとうございました。TAのお兄さんお姉さんがいなくなったら、途中でくじけていたと思います。
- ・おもしろい人達ばかりで、気軽に話せてよかったです。ポーカークフェイスでがんばってくれて

Thank You !

- ・楽しい人が多くて(ほとんど?)すごく楽しかったです。あるときは優しく、あるときは鬼のようにきびしく(?)、あるときは面白く……。とつてもよかったです。
- ・すごく楽しく盛り上げてくれたり、気軽に話せたりしてうれしかったです。
- ・わからない事をいろいろおしえてくださいました。その他にも塾以外の話などして、楽しかったです。
- ・とてもやさしくて、本当のお兄さん、お姉さんになってほしい!

③グループでできたお友達について

- ・これから、メール交換していくつもりです。
- ・男女仲良く協力できて、これから、ネットじょうで会話していきます。どこかでまた会いましょう!
- ・男女問わず、本当に仲良くなれて楽しかった。意外な共通点(友達)を見つげられたのも良かった。
- ・お友達がたくさんできて楽しかったです。2日目の夜なんて日付よゆーで変わってたし…。男女各4人という数もよかったです。
- ・すぐに仲良くなる事が出来ました。団結もついて、作品も良いものを作る事が出来たと思います。
- ・別にケンカもせず、すぐ仲よくなれ、協力し、いいHPができた。
- ・皆めっちゃ×2仲良くて最後は、メルアド、住所とかかんもしました。
- ・みんな、すごく、コンピュータができていて、

すごいなあと感服した。自分の無力さを感じた。あまり、自分のようなバカな人がいないのが淋しかった。バカの輪をこの期会に県内全域に広めたかったのに。

- ・みんな、ものしり。あまりはなしについていけない。みんなががんばってた。
- ・話しやすくてグループ活動もしやすかったホームページの案をたてるにしても話しやすくてよかった。

④その他

- ・ごめーわくおかけしました。でも、本当に楽しかったです! 3日間ありがとうございました。来て良かった。
- ・もう少し日数があればいいと思った。
- ・夏休みの大事な思い出になった。
- ・本当にとても良い経験になりました。とても多くの物をパソコン、そして以外でも、学んだ気がします。夏休み最後の最高の思い出になりました。
- ・HPを作る時に、みんなで協力できました。これから、この3日間で学習したことを生かしていきたいです。
- ・理科の自由研究がまだなので、これ、自由研究にします。ありがたいです。

以上

付録2 塾生の指導記録(カルテ)

塾生のカルテ		年 月 日 班 a*b		記録者( ) No. <input type="text"/>		
塾生氏名	指導者から見た塾生の状態			指導者としての計画		備考
	塾生のやる気の状態	学習レベル状態(初期状態や前回からの変化)	他の塾生との協理	総合評価	当面の指導の目標	
	とてもある ややある 普通 ややない とてもない		とても積極的 やや積極的 普通 少なめ 全くない	とてもよい ややよい 普通 少し頑張ろう 必ず頑張ろう		
	とてもある ややある 普通 ややない とてもない		とても積極的 やや積極的 普通 少なめ 全くない	とてもよい ややよい 普通 少し頑張ろう 必ず頑張ろう		
	とてもある ややある 普通 ややない とてもない		とても積極的 やや積極的 普通 少なめ 全くない	とてもよい ややよい 普通 少し頑張ろう 必ず頑張ろう		
	とてもある ややある 普通 ややない とてもない		とても積極的 やや積極的 普通 少なめ 全くない	とてもよい ややよい 普通 少し頑張ろう 必ず頑張ろう		